

事務事業名	体力向上推進事業				担当	教育委員会 学校教育課 指導係		
政策名	1	「人づくり」～豊かなこころアップ！～				☒ 総重（総合計画重点事業）		☐ 総新（総合計画新規事業）
施策名	2	心の教育と健やかな体づくり				☐ 戦拡（総合戦略拡充事業）		☐ 戦新（総合戦略新規事業）
関連個別計画	真岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略				事業期間	☐ 単年度のみ		
法令根拠						☒ 毎年度実施（開始年度 H29 年度～）		
予算科目	1.一般会計	10.教育費	1.教育総務費	3.教育振興費		☐ 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）		
予算科目								
予算科目								
事業概要	子ども達の体力の低下傾向を改善するため、各学校においては、工夫・改善を図りながら体力の向上に努めている。各校の取組がより効果的になるよう、真岡市体力向上推進委員会を開催するとともに、真岡市体力向上プログラムを作成し、各校の体力向上に向けた取組を支援する。 【種目】 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、 20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ（小学校）、ハンドボール投げ（中学校）							

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

① 手段（主な活動）				④活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移							
6年度実績 各校の「体力推進アップシート」を活用した体力向上の取組。「学級対抗長縄 8 の字跳びにチャレンジ～ 8 の字もおかびょん～」を実施。真岡市体力向上推進委員会を開催。新たに第 2 回新体力テスト（投力のみ 3 年計画で実施）を実施。 県の体力向上エキスパートティーチャー派遣事業と連携し各学校の取組を推進。 家庭と連携した体力づくりの取組（第 2 版）を作成し周知。 7年度計画 真岡市体力向上プログラムの更新。各校の「体力推進アップシート」を活用した体力向上の取組推進。「学級対抗長縄 8 の字跳びにチャレンジ～ 8 の字もおかびょん～」を実施。 真岡市体力向上推進委員会を年 2 回開催。第 2 回新体力テスト（投力のみ、3 年計画の 2 年目）を実施。 県の体力向上エキスパートティーチャー派遣事業。 家庭と連携した体力づくりの取組（真岡市チャレンジカード）を作成し周知。				名称		単位	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(実績)	7 年度(見込)
				ア	小学校実施種目数	種目	8	8	8	8	8
				イ	中学校実施種目数	種目	8	8	8	8	8
				ウ	対象となる学年の数	学年	9	9	9	9	9
				エ	推進委員会の開催回数	回	2	2	2	2	2
				オ							
② 対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等				⑤対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移							
児童生徒（小学校1年生～中学校3年生）				名称		単位	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(実績)	7 年度(見込)
				ア	児童数	人	4,343	4,229	4,192	4,021	3,877
				イ	生徒数	人	2,222	2,247	2,172	2,162	2,127
				ウ							
				エ							
				オ							
③ 意図（この事業によって、対象をどう変えるのか）				⑥成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移							
児童生徒の体力に関する本市の課題3種目（50m走、ボール投げ、長座体前屈）の結果を把握し、運動する子どもとそうでない子どもの二極化の改善とともに、体力の向上・運動に親しむ児童生徒数の増加に努め、全国体力・運動能力、運動習慣等調査で全国の体力合計点を上回る。				名称		単位	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(実績)	7 年度(見込)
				ア	全国体力・運動能力調査で全国を上回った小学校(男子)	校	3	3	11	9	6
				イ	全国体力・運動能力調査で全国を上回った小学校(女子)	校	5	9	10	10	10
				ウ	全国体力・運動能力調査で全国を上回った中学校(男子)	校	5	2	6	4	6
				エ	全国体力・運動能力調査で全国を上回った中学校(女子)	校	4	6	7	6	7
				オ							
② 総事業費の推移				単位	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(実績)	7 年度(見込)		
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0		
			県支出金	千円	0	0	0	0	0		
			地方債	千円	0	0	0	0	0		
			その他	千円	0	0	0	0	0		
			一般財源	千円	48	118	100	100	120		
	事業費計（A）		千円	48	118	100	100	120			

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 市の政策体系に結び付き、社会環境や住民ニーズ等を考慮した上で目的は妥当か？	☒ 見直し余地はない ☐ 見直し余地がある (評価理由) 「人づくり」～豊かなこころアップ～「心の教育と健やかな体づくり」での運動習慣・生活習慣の定着化のために必要である。
	②公共関与の妥当性 市が事業に関与する必要があるか？	☒ 見直し余地はない ☐ 見直し余地がある (評価理由) 子どもたちの基礎体力の向上を図り運動習慣を確立することは、市が目指す心の教育と健やかな体づくりにつながり、市教委が先導する必要がある。
	③対象と意図の妥当性 ・1枚目の②「対象」③「意図」は適切か？ ・対象を限定・追加する必要があるか？ ・意図を限定・追加する必要があるか？	☒ 対象・意図を見直す必要はない ☐ 対象を見直す必要がある ☐ 意図を見直す必要がある (評価理由) 児童生徒一人一人の体力の向上に資することであり、適切である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるかどうか？ない場合の理由は適切か？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地はない ☐ 向上余地がある (評価理由) 引き続き、真岡市体力向上プログラムを参考にし、各学校は体力向上の取組を実践する。その取組が効果的になるよう各学校を支援する。第2回新体力テスト(投力のみ)を実施することで課題の1つを克服できるようにする。また、家庭で運動の習慣化を図れるように「真岡市チャレンジカード」で促す。「学級対抗長縄8の字跳びにチャレンジ～『8の子もおかびょん』」を実施し、運動する楽しさを感じることができるようにする。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 ・類似事業はないか、統合や連携はできないか？	☐ 類似事業と統合・連携ができる(類似の事務事業名：) ☐ 類似事業と統合・連携できない(類似の事務事業名：) ☒ 類似事業はない (評価理由)
効率性評価	⑥事業費の削減余地 ・成果を下げずに実施主体の見直しによりコスト削減をできないか？ ・実施方法の適正化によりコスト削減をできないか？	☒ 削減余地がない ☐ 削減余地がある (評価理由) 成果を上げるためには、必要最低限である。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性（改革案・実行計画） ☐ 廃止 ☐ 見直し（☐：目的妥当性 ☐：有効性 ☐：効率性） ☐ 統合 ☒ 継続 子どもたちの基礎体力の向上を図り、運動習慣を確立することは、市の重要施策であるため、継続的に取り組む必要がある。	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td style="border: 1px solid black;"></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td style="border: 1px solid black;"></td> <td style="border: 1px solid black;"></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		○																			
	低下																					
(2) 課題、課題の克服の方向性 引き続き、児童生徒の体力向上のため、各学校への効果的支援に努める。																						

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 ☐ 記述説明不足(説明責任不充分) ☐ 評価内容が客観性を欠く ☒ 評価内容は客観的と言える		(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td style="text-align: center;">/</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td style="text-align: center;">/</td> <td style="text-align: center;">/</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	/	低下		/	/
					コスト																		
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		○	/																			
	低下		/	/																			
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ②有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的絞込み ☐ 目的拡充 ☐ 事業統廃合 ☐ 事業のやり方改善 ☐ 予算削減 ☐ 予算増大 ☒ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																					